

# 會

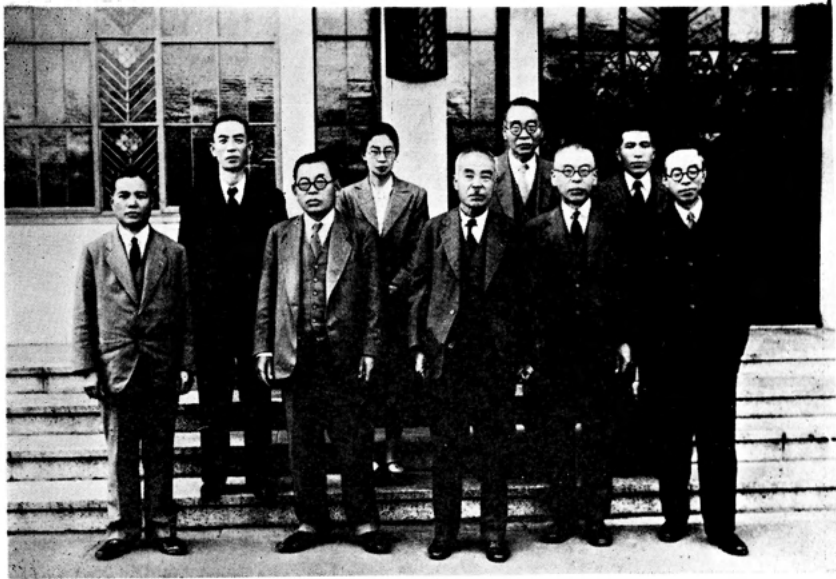
# 報

## 阿部先生追悼号

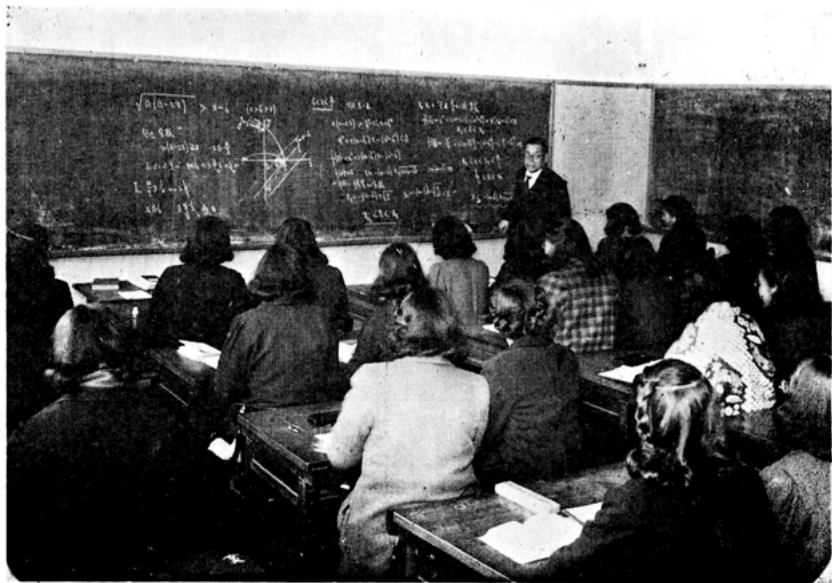
### 目次

御略歴	.....
追悼座談会	.....
追悼のことば	..... 小林薫一
阿部先生と安井先生	..... 平野雪枝
数学専攻部創立当時を省みて	..... 豊泉しげ
阿部先生を思う	..... 中屋澄子
阿部先生の事	..... 樋口千嘉
阿部先生の思い出	..... 吉利花枝
	..... 秋元寛子
	..... 多賀静子
阿部先生の思い出	..... 金井信子
編集後記	.....

東京女子大学同窓会数専会



昭和18年当時の数専会の先生方と共に



昭和22年当時の教場の阿部先生



故 阿部八代太郎先生

故阿部八代太郎先生御略歴

明治十六年十二月三日 岡山県上道郡富山村海吉に誕生  
 明治三十九年三月三日 東京高等師範学校数物化学部卒業

明治四十二年七月十四日 京都帝国大学理工科大学数学科卒業。恩賜銀時計拝受、同大学院入学数学専攻

明治四十四年四月八日 任東京高等師範学校教授、兼任東京高等師範学校訓導。

大正八年十月二二日 数学研究のため二ヶ年間英国仏国へ留学を命ぜらる。

大正九年三月一日 独逸国を留学国に追加す。  
 大正十二年五月二日 アメリカ合衆国を留学国に追加す。

大正十二年四月一日 東京女子大学講師を嘱託せらる  
 大正十三年九月十三日 文部省視学委員を命ぜらる。  
 昭和五年三月三十一日 東京文理科大学講師を嘱託せらる。

昭和七年十月一日 東京物理学校教授に兼任せらる  
 昭和十二年十月十八日 東京高等師範学校名誉教授の名称を与えられる。

昭和二十六年七月八日 逝去。敍従三位、特旨を以て位一級追陞せらる。

阿部八代太郎先生の追悼座談会

(昭・三二・七・六)

出席者氏名

平野先生	豊泉しげ(昭・六・卒)
小林先生	中屋澄子(昭・七・卒)
中谷先生	小山英子(昭・八・卒)
中村先生	寺光よし子(〃)
野原先生	溝口雪恵(昭・九・卒)
	池野和歌子(昭・十・卒)
	朝永領子(〃)
	堀すみ(昭・十四・卒)
	今井チエ子(昭・七・卒)
	原美根子(昭・九・卒)
	根岸愛子(昭・兩・卒)

池野

「皆様御多忙のところ、阿部先生をおしのびする座談会にお集り下さいますして、誠に有難うございます。会長の豊泉さんから御挨拶があります。」

豊泉

「先生方御多忙のところお集り下さいますして有難うございます。殊に、野原先生にはお忙しいところを馳けつけて下さいますして感謝いたします。」

数専会の時に、阿部先生のお姿のない事は本当に淋しい事でございます。しかし、此処にニコ／＼しておいでになるように思われます。今日は先生の女子大に於ける基礎工事の時代をしのびながら、いろ

いろいろお話をし、阿部先生の御冥福を祈りたいと存じます。なるべく、阿部先生の古い時代の方からお願ひ致します。

では、小林先生からどうぞ」

小林 「順を追って話した方が纏るのではないでしようか。数専の出来たのが昭和二年ですから、阿部先生と数専との結びつきを平野先生お話し下さい」

平野 「一番最初に阿部先生とお目にかゝつたのは、私が女子大に来る前で、女高師で開かれた数学教育会の委員の席でございます。先生が外国からお帰りになつて間もない時と思います。何時でもあの時のさつそうとしたお若いお姿を思い出します。

その後女子大が創立されて、はじめは私が数学を教えて居りましたが、阿部先生が来られて、高等学部の数学をお教えになりました。先生を女子大に御推薦下さつたのは国枝先生でございます。正課の外に熱心な数人の学生のために課外の授業をもして下さいました。それは大正九年か、十年頃でございます」

小林 「阿部先生が外国から帰つて来られたのは大正十二年ですか」

平野 「いえ、もつと前です」

中谷 「私のもつとあとのように思いますが」

野原 「私は大正十二年頃おならいしましたがその頃はも

う新進という様子ではありませんでした。外国から帰られて二年位経つて居たように思われました」

平野 「たしか大正十二年の夏福岡で数学教育会総会が開かれ、その帰りに小倉さん（今は立教女学院に居られる）と阿部先生のおともをして瀬戸内海から高松岡山などを旅行しました。それがとても楽しい思い出になつて居ります」

中村 「阿部先生はお若い頃、肥つていらつしやいましたか」

平野 「肥つていらつしやいましたが、ひきしまつたお体でした。竹名先生に御出席いたゞければ、数専の基礎工事の時代を詳しくお話しいたゞけるのですが」

豊泉 「私達の頃は、一日六時間全部阿部先生の時間でした。ですからよく、阿部先生からその当時のお話を伺いました」

平野 「新しい専任の数学の先生をお招きするについては阿部先生と安井先生は随分慎重にお考えになりました。そして小林先生がお出で下さることになつたのです」

小林 「そうですね。そんなことゝは知りませんでした。あの当時としては、阿部先生と竹名先生と二人だけでよく認可が下りたものですね、私が来た時は、蓮池先生、平野先生がいらつしやいました」

野原 「学生は何人位でしたか」

豊泉

「二十人余り受験して、十三人で始まりました。私は高等学部時代に、阿部先生に教えて頂いておりましたが『こんなに数学の好きな人が出て来れば、数専が出来そうだね』と云われました。安井先生が数学がお好きで、すゝめて下さらなければ、とても数専は出来なかつたと思います。あの当時は女子が大学へ行くのでさえ、お嫁さんになれないと云われた時代なのに、その上数学を勉強するのでは、とてもお嫁さんの貰い手がないと云われました」

平野

「安井先生は数学がお好きで、会議の時など『数学が出来なければだめだ』とおつしやつて数学の成績で学生の能力の評価をなさいました。阿部先生は講師でいらつしやいましたが、安井先生とは、よく、さつくばらんに話をされておられる様でした」

豊泉

「阿部先生は、安井先生は、私は何も細い事は云わない、とにかくあなたに任せます、と云われて、非常に責任を感じました。とおつしやつて居られました」

中谷

「阿部先生その当時の事は、余りよく知られていないのではないでしようか」

豊泉

「今日、私のクラスの者が出席されてれば、もつとよく分つたのです。私立学校としては、数学という専門の科を持つて

平野

いたのは、当時の物理学校と東京女子大だけでしたね」

中村

「その当時は学生数も少なかつたし、いろ／＼の事が先生から学生に話されたのですね。阿部先生は当時三十代でしたか」

平野

「私達はともにお年を取つて居られるように見えて五十才位だと思つて居りました」

小林

「貫ろくがあつたのですね。はじめから恐かつたのですか」

野原

「それでもありません」

堀

「野原さんがいらつしやつたのは、昭和七年か八年でしたか」

豊泉

「昭和十年には私達がおならいしました」

中谷

「阿部先生の留学は数学の勉強ではなかつたのでし

豊泉

「主として数学教育でしやうね。中谷さん、数学教育としては、先生は日本の草分けですか」

小林

「数学教育の国際分野を担われたのです。それは一種の情熱がなければ出来なかつたでしやう。阿部先生はイギリスの学校のこと、ペリー運動を裏附けた学校の視察のお話をされました」

野原

「何時か、杉浦さんが東大の学生であつた頃、林町の阿部先生のお宅の前を通つて通学していた時『阿部八代太郎』の標札をみて、何と珍らしい名前かと

小林

3

思つていたところ、女子大に来て、はからずも阿部先生がその名前の先生である事を知つて驚きました、と云われました。

小林 「阿部先生のお宅に学生達大勢で伺つたことがありますか」

豊泉 「私達はよく先生を誘い出しました。一日に六時間も続けて教えていたとくと、大変だつたのです。だれてしまつて、そこで先生を誘い出しました。そして、よく井の頭などに行つて『衣かつぎ』などおごつていたときました。その頃『衣かつぎ』のようなものしかなかつたのです」

中村 「非常に親しみやすい、良いところがありました。庶民的だつたとでも云うのでしようかね」

豊泉 「先生は、学生が可愛いくて、可愛いくてたまらなかつたのですね。大分叱られましたが大分叱られても少しも恐くありませんでした。私は時間中立たされて、一時間中、0から9までの数字を書かされた事があります。竹名先生は阿部先生と一緒に歩かれても「三尺下つて」歩かれるので、有名でした」

平野 「阿部先生といえば板書のきれいだつたこと、文字方程式の根の吟味のことを思い出します」

野原 「阿部先生は根の吟味が好きでしたね。亡くなる前に、数学教育会がつぶれかゝつて、お金が集まら

小林 「この時代には学生数も少なく、とても気がひけましたが、安井先生はこの事について一言もふれたことはありませんでした。」

平野 「ミス・バイダーなどもよく同情されました……ただかつて、入学試験から数学を取り除こうなどと会議で議せられた事がありました」

豊泉 「他の女子大で数学が試験科目に入るようになったのは比較的最近のことです」

豊泉 「時間が来ました。お話は尽きませんが、これから阿部先生のお宅へ伺いますので、一先ず打ち切ります。皆様本当に有難うございました」 以上

これから二組に分れて、一組は阿部先生のお宅へ、他の組は青山墓地へお墓参りに行きました。

## 追悼のことば

小林 薫 一

この頃数専会の会合にでて、いつも感ずることですが、卒業生の皆さんと話していると、話題がいつしか阿部先生のことに移り、なんだか先生がこの席に戻つておいでになる——いま、一寸席を外しておられるが、直ぐに戻つてこられて「やあ、失礼、みんな集まつたかね」と無雑作に椅子について眼鏡越しに一人一人の顔をやさしく見まわさ

なくて困つて居られた時『つぶれる時はつぶれてもよい』と云つてしまいました。その後盛大になりましたが、あとから考えてあの時は申し訳ない事を云つてしまつたと思ひました。それは昭和二十三年か二十四年頃でした」

中谷 「阿部先生の書かれた本は、要領が良いですね。一般代数学は今でも出ていますが、この頃になつて又根の吟味など流行つて来たので受験生には大分役に立っているのではしよう」

小林 「あの当時は、先生は何でも出来なければいけないと云つて、毎年違つた学科を持たされたのには大分困りました」

豊泉 「阿部先生がいつもそうおつしやつていました」

平野 「大体女子大の数専の学科は、大塚の学科を基準として立てられたようでした。勿論文部省の指示にもよりましたが」

野原 「私が女子大に来た当時は、検定試験のために大騒ぎをしていました」

中谷 「毎週試験をして……」

平野 「私どもも夏休みを返上して講習会をしました。そして此度の試験にパスしなければ、どうしようかと、とても苦しかつたです」

先日も数専会の胆入りで阿部先生の七周忌の法要がとり行われ、奥様を中心に追悼の会がもたれたのでしたが、そのときもいつの間にかそんな錯覚にとらわれてしまいました。だが、それは私一人だけではなく、おそらく当日お集りの皆さん方に共通した感じであつたらうと想像いたします。

しかし、こうしたものゝ感じ方は第三者からみれば感傷的で大人げないと軽蔑される筋合のものであるかも知れません。けれども、少くとも当日この席の空気のなかにおかれた人々にとつては、目にみえる先生の姿はないにしても先生の心、先生の精神は生きておられるのだということ、どなたも否定できないと信じます。そうだとすれば、先生はやはり卒業生の心の一隅に今なほ生きておいでになるのだ——思えば、このことは何んと尊い心のつながりでありましょうか。数学専攻部（数学科・数理科も含めて）の歴史を回顧するとき、いろ／＼と想ひはつきませんが、すでに故人となられたこれら多くの先生方の目にみえない力に支えられてきたことは事実だと思ひます。

先生は非常に凡帳面な性格で、とくに講義中は一言一句も疎かにしないほどでありましたが、その反面心から学生達を愛し、卒業後のことなどについても至れり尽せりの面倒をみたものでありました。つまり、厳しい先生である

と同時に温容の人でもあり、親しめる父でもあつたわけです。そして昭和二十六年七月病死せられるまで、実に十九年の長い間教専のためにその労を惜しまれなかつたのであります。皆さん!! 先生はやつぱり数専会のなかに生きておられるのです。

このたび阿部先生の追悼号が刊行されるに当り、かつての門弟の一人として思いを新にし、いさゝか感想を述べて追悼のことばといたします。

(一九五七・九・二六)

## 阿部先生と安井先生

平野 雪枝

阿部八代太郎先生が始めて東京女子大学にご関係下さつたのは大正十二年の春で、新宿角筈の仮校舎時代である。女子大は文科系の学校であつたが、初めから入学試験に数学が課せられ、また各科とも基礎学科として数学を必修することになつていた。これは安井先生が従来の女子教育では軽視されていた数理的訓練の必要を強く感じておられたからである。そのため先生は創立以来、数学の授業を重要視し、その適当な担任者を求めておられた。そのとき外国

からお帰えりになつて日も浅い新進の数学者阿部先生が講師として女子大にお出で下さることになつた。先生は初めに高等学部 of 授業をもつておられたが、その熱心な指導によつて学生の数学に対する興味は急に高まり正規の課程が了つても、なお数学の学習をつづけようとして希望するものがあつて、課外のクラスまで作つて数学研究が始められた。その頃から女子大に数学専攻部の芽生えがそだてられたと思う。

阿部先生はたゞ数学の授業をなさるだけでなく、女子大の教育に非常な興味と関心をよせられ、学校の将来の問題に關しても安井先生と懇談されることが屢々であつた。殊に女子の高等教育に対してふかい理解と同情をもつておられたので、安井先生とは意気投合される点が多かつたようである。授業が終つた後よく安井先生との間で腹藏ない意見をかわされたが、ある時お二人の主張が離れていつまでたつてもお話は結論に達しなかつたらしく、後で安井先生は私に「阿部さんはほんとに循環小数みたいね」と笑つてお話になつたことがある。

その後時勢の影響もあつて女子大が規則を改めて専攻部をおくことになつた際、英語・国語の他に数学専攻部を設けられることになつたのも、安井先生のお考えに阿部先生の助言が大きな力をもつたことと推察される。そして同部創設の直接の仕事を阿部先生に一任された。阿部先生は女子大で数年教えられた経験をもとにして、種々の構想をね

られ綿密な立案をされて準備はでき上つた。当時は女子の理科教育に対して世間は全く無理解で、女子大で数学の専攻部をおくことは無謀とさえ思われたときであるから、開設までには種々の困難に直面したことには想像にかたくない。安井先生のおふかい思慮と英断と更に阿部先生の熱心な協力によつて数学専攻部は生れたといえると思う。

昭和二年に愈々数専は発足したがそれから約十年は女子の科学教育開拓のための苦難の道であつた。色々の難問題を克服せねばならなかつた。殊に無試験検定の問題では並ならぬ苦勞があつたし、少数の学生をもつ独立した部といふことは経営の面でも大きな犠牲が払われねばならなかつた。その重荷を負われたのが学校の責任者である安井先生と数専の主任でいらした阿部先生である。たゞ強い信念をもつて忍耐し奮闘して下さつた両先生のおかげで今日の女子大の数学科の基礎ができたのである。

今はなき両先生に対して、感謝の意をあらたにおぼゆるものである。

## 数学専攻部創立当時を省みて

昭・六・卒 豊泉 しげ

昭和のはじめといえはまた世の母親達が「女子大学を卒業したら貰い手がなくなる」と心配して進学をひどく嫌つ

た時代である。特に東京女子大の様に家政科も置かず学問一点ばりの学校出の妻君を貰つたら亭主は尻に敷かれるともつばら敬遠された。この頃女子大に入学なさつた方々は吃度この様な言葉を耳にした経験をお持ちになつていられると思う。大正十五年片山哲先生が「婦人参政権を与えよ」という課題で五分間演説をせよ等と言われ田舎出の私等目をパチクリさせた覚えもあるから東京女子大学は余程進歩的だつたと思われる。当時してみれば男達の恐れるのも無理からぬ事だつたかも知れない。某国立大学のゼミのグループ二十人位に「君が若し妻君を迎えたとすれば女子大出がいゝか女学校出がいゝか」というアンケートをとつたら、たつた一人女子大出がいゝと答えた、而かもこの一人は女子大生と交際中であつたとか聞いた事もあつた。又男子ならば貧しい学徒には育英資金の制度があつた、然し女子には勿論この様な制度も利用出来なかつた。ゆき乍ら聴講にでも行かして貰いたいと思つて幾つ学校(男子の大学の)の門を叩いたか分らない。勿論何処も見向きもしなかつた。今から考えると不思議な位である。

国家全体として考えて見ても第一次大戦以後経済的に異常なまでに好況を來たし後に又大正九年の経済恐慌、大正十二年の関東大震災の巨額の富を失ひ回復ならずして、失業者はふえ就職難の問題が山と積まれよい就職口を探す為によき学校に入つた。又第二次日本共産党、京大事件等々

思想的にも困乱をきたした時代である。

この時高等学部では故阿部八代太郎先生が教鞭を取つていられた。そして時々上級生にも数学の好きな方があつた。井出さんとか堀内さんとかね。そして年々数学好きが多くなる傾向がある。数学をもつとやつてみたいと思ふ人はこの方々と御一緒に勉強したらどうだとよく言われた。然し阿部先生でさえ当時の世相から見て、果して本当に数学を専攻する者が集るか、一抹の不安を持たれていた様である。それには又も一つの御心配もあつた。当時中学校(男子のみ、五年制課程)では三角函数、対数、立体幾何学までやつたが女学校(女子のみ、四年又は五年制課程)では四、二次方程式の解法位迄であつた。女子で対数や三角函数をやつた学校もあつたが之等は随分程度の高い学校としてびつくりしたものである。従つて女子大に専攻部をおくとすれば一年間はどうしても女学校の補充をしなければならぬと言ふハンディキャップもある。兎も角女子大学へ進学するという事自体親達の心を悩ましたのに数学をやるといふ事は怖るべき事であつた。社会的に、経済的に、又思想的に悪条件を備えた時代、よく阿部先生は数学専攻部設立の夢を持たれたものだと思議でもあるが同時に又将来を見抜く力と女子教育への熱意がどんなに旺盛であつたか伺える。私共が今日あるのは全く阿部先生のおかげであると言つても過言ではない。それだけに設立当時の事を話し出されると先生は言葉が尽きない。

にたむろしている十人のグループは何だろうと思つたら数学の人達ね、と他の専攻部の方達によくいわれた。

週五日のうち「火曜日」は一日中阿部先生、何とはなしに待たれる日であつた。珍らしいと言ふ点もあつたが、何時も御兄さんと一緒におかれてはいる妹達が父親を迎える気持でもあつた。私共が笑つても顔を赤らめる様なまじめな若い竹名先生と過す毎日も亦楽しかつたが阿部先生の視野の広いゆとりのある面白い授業の他に、そこはかとなく語る人生観、たぐつてもたぐつてもつきることのない糸の如く流れ出る先生の御言葉が私共にとつて唯一の清涼材でもあつた。先生は数学をやる人は無味乾燥だと言われる様では困る。勿論学者になる人があつてもよい、けれどそればかりでは困る立派なお嫁さんになり、立ちおくれた日本の台所をもつと科学的に改良してゆき、子女の教育に當つて貰いたい、お母さんが数学を好むと子供が自然に数学に強い関心をもつ、そこから数学をうえつけなければいけない。又或人は先生になつて貰いたい。文部省に反対され乍ら強引にこの数学専攻部をたてたのだからどうか「それ見た事かといわれぬ様に頑張つて貰いたい」と軟かい言いまわしであり乍ら私共のゆるみゆく心に時々こうした話を入られた。

先生は又生徒を思う心厚く一人一人に絶えず目を配つていられた。私が昼休み食事をすませたあと教室で慥か一高の寮歌を蚤声はりあげて唄つた事がある。阿部先生の日で

数学専攻部を設立していただきたいと安井先生に願ひ出

たら「貴方に一任するからよろしくたのむ」とたゞそれだけだつた、何一つおつしやらなかつた。「まかせろ」と仰言つて下さつたからしやすかつたけれど反面責任を感じ日夜この事ばかり考えた。然しあの時代若し、安井先生が学長でなかつたならおそらくは数学専攻部はたななかつただろうとよくおつしやつた。そして文部省は何度足を運んでも首を横に振つて許可してくれない。女子に数学を専攻する科をおくのは時期尚早である。他に数学を専攻する女子大学がない、女高師には理科の下に数学があるが理科も数学も一緒にして四年だから数学だけを四年間する学校を許したとすれば既存の学校の教科課程に影響する、と文部省は又文部省独自の悩みがあるのだ等ともおつしやつた。それでも強引に予定通り開設募集された。

第一回の受験生二十七人、合格者十一人、高等学部よりの転入学者二人、計十三人で始まつた様に覚えている。受験生が一人ふえる度に「あつ又一人ふえたんですつて」と高等学部在学中で数学に転科しようかという者達は非常な関心をもつて見守つていた。

愈々開講、先生は御二人、阿部八代太郎先生と竹名英一郎先生である。竹名先生は影の形に沿うが如く三尺下がつて師の影をふますの句言通り阿部先生と肩を並べて歩いていられた事は殆んどなかつた。私共は何処へ行くにもこの御二人の先生の周囲にまつわりついたものだ、女子大の庭ある事も忘れて気持よく秋の感触に浸つていた。鐘が鳴つた、阿部先生がはいつていらした、礼をするや否や、鶴永さん、黒板に出て0から9までの数字を書いて御覧と仰言つた。今更数字等書かせるのはおかしいなと思ひ乍ら命令通り黒板に書き自分の席に戻ろうとした。まだ一駄目、貴女の書いた0は数字ではないダシゴだ、も一度書いてみる、こうして書くのだと見本を書いて下さつた。先生の字は又特別に芸術的な、美しい生きた字であつた。それに真似てきれいかいたつもりだけど仲々席にもどして下さらない、黒板一つばいに書け、奇麗になるまでと、私を立たしたまふ説教が始まつた。昼休みの長い間蚤声張り上げて歌う間に数字の練習でもしたらどうだ、今我々は暢気に学生生活を営んでいる時ではない、強引にこの数学専攻部を建てたのだ、貴女達は後輩に対して責任があるのだ、議会に對して責任があるのだ、やはり女子大出のお嫁さんがいいと言われる様でなくつてはいかん、学問をすればする程人に愛される立派なお嫁さんになつて貰い度い、と先生の御話の中には必ずと言つてもいゝ位お嫁さんがつきものだつた。それから考ええても女子大出のお嫁さんがどんなに人に敬遠されていたかどわかる。こうして説教をなさつた後等、どうだ今日は何処か散歩に行くか、何処か散歩に行つた先でお茶等飲む家があるかとおつしやつた。そして当時の井の頭名物「キヌカツギ」をよく買つて貰つた。味を占めた私共は、先ずお茶屋さんを見つけておきて、

○にお茶屋さんがあります、キヌカツギが売っておりま  
すから今日は散歩に行きましょう、みんな疲れたと言つて  
おります等と言つて故益田国母さんと二人はいつも先生を  
誘う代表であつた。その時三木隆さんに私達は怒られた。  
貴女達何の為に大学に来たの、遊びにきたの、勉強に来た  
のと泣かんばかりにして訴えられた。けれども、三木さん  
皆の分問題しておいてよ、私達遊んで来るからと一人残し  
て先生を連れ出した事もあつた。その夜は三木さんのノー  
トを写すのに夜なべをした。こうして私達の師弟愛友情は  
親身以上のものであつた。

先日追悼会のあと阿部先生の奥様を訪れたら「主人は掛  
引なしに学生さんを自分の子供より可愛がつたと思ふ。家  
で機嫌が悪く口もきかないでいる時も学生さんが来られる  
とガラッと変る、ニコニコして話し出すので助かつた事も  
ある。又絶えず身の上相談が持ちこまれる、一身上の事か  
ら学資金のことまでまるで身上相談所の様であつた」と語  
られた。先生が全身全霊を傾けて文字通り数学教育に献げ  
られた巧績は大きい。この背後に絶えず先生を支えていて  
下さいました奥様に併せて感謝を送りたい。何事につけて  
も創立当時というものは緊張した苦闘と喜びとが漲つてい  
るものです。丁度都会の高層建築が基礎工事に多大の日数と費  
用を投じ、或時は物的犠牲の上になされた建築でさえ  
時を経て其処に住む人達は基礎工事の苦勞等微塵も感じな

## 阿部先生を思う

昭・七卒 中屋 澄子

昭和三年四月。はるばる朝鮮の京城から東京女子大学数  
学専攻部に入學のため上京して来たのも、もう三十年の昔  
になつてしまつた。一回生が八人と二回生私たちが十七  
人、先生は阿部先生、竹名先生と、その年東北大学を卒業  
され帰つて来られた光先生、今の平野先生のお三人だけだ  
つた。阿部先生は週一回火曜日に出て来られて一年生が二  
時間、二年生が四時間、あとは平野先生と竹名先生が全部  
教えて下さつたと思う。三十年前のおほろげな記憶の中か  
ら阿部先生のお姿を拾ひ出してみようと思う。

今でいへば・高校二・三年の茶目気たつぶりの一年生、  
早速先生方にあだ名がついた。阿部先生のKさん、竹名先  
生のYさん、三尺下つて師のかけをふまず、を身を以て示  
された竹名先生が恩師阿部先生のあとからかけの形に添う  
が如くついて歩かれるそのかつこうがYの字をさかさにし  
たようだというのでYさん。阿部先生のKさんは先生から  
連想されるあるもの、頭文字であつたらしい。その漫画が  
教室を廻つていたこともあつた、又阿部先生の姓プラス  
名を三字づゝに分けてお呼びしたり、まず思ひ出すのはこ  
のようなこと。かんじんのお授業については断片的なある  
場面が頭をかすめるだけ、四年間毎週二時間づゝ何を教え  
て頂いたのかはつきり思ひ出せないものもある。なかで一

い如くに。この意味に於て私は故阿部八代太郎先生のなさ  
れた基礎工事に限りない感謝をもち懐旧の思切なるものが  
ある。今も尚阿部先生はよいお嫁さんになれ、よい人間に  
なれ、と机の両端を両手で押え半ば前こゝみになり乍ら、  
微笑を浮べつゝ私共にやさしく語つていられる様を思う。  
七年忌をむかえるに當つて、も一度現在の数学科の創立当  
時をしのび改めて阿部先生に感謝を送り、御冥福を祈ると  
共に数学科の発展を祈つてやまない。

こうした阿部先生のことを思い出しても感激で胸が一杯  
になる、當時は若気の至りで先生のこうした御氣持を知る  
よしもなかつた。今私はこの文を書き乍ら後からこゝみ  
あげてくる感謝の涙をおさえる事が出来ない。私が今出来  
るものは何もない、よいお嫁さんにもなれず、又よい教師  
にも成れず、悶々の中に過ぎ行く日を送つてゐる。先生は  
屹度歎いていられるかも知れない。けれども私は私が生き  
ているうちに、こうした愛情を知り得た事、何物にもかえ  
がたい師弟の愛、友愛が身に迫る幸福を知り得た事は、身  
辺の反対をおしきつても尚當時敬遠された女子の最高学府  
東京女子大学に學んだ賜物である。若し東京女子大学に學  
ばなかつたならば嗚声はり上げて歌つた寮歌も今は鼻もち  
ならない嗚声に變つていたかも知れない。

番覚えてゐるのは入學当時高等代数の順列組合せで、今自  
分が教える立場になつて、阿部先生先の御説明はよくわかつ  
たのになつた。先生はお身体に似合はない細長い感じのす  
る字を心持ちなまゝに黒板にさら／＼書かれ、スピードが  
出るとますます／＼なまゝになる。用語、文字、文章などに  
いて非常に細かくて、✓を必ず平方根と言わされたこと。  
root は square root や cubic root 等あつて、ルートと  
読んではいけないというのわかるが、ゼロという言葉を使  
きられたのは何故だかわからない。阿部先生の根の吟味  
は有名らしいが私は文字の入つた無理不等式を細かく分類  
したことが何だか頭に残つてゐる。

安井先生の御理解によりすべてをまかせられて数学専攻  
部を作つて居られた阿部先生は新しいものを創り出すこ  
とでさぞ御苦勞なされたことと思ふ。当時女子の学校で数  
学を専攻してゐたのは女高師だけで、先生は大たい女高師  
を参考にして居られたようであるがよく使われたのは「女  
高師程度」という言葉である。女高師は「高等女学校の教  
員」の資格であり、女子大は「師範学校・中学校・高等女  
学校の教員」の免許状を申請するのだという理想に向つて  
進んで居られたのがよく言動に表われていた。当時無試験  
検定のある私立学校は物理学校だけで、女子大の専攻が無  
試験検定を得るまでの涙ぐましい努力は私の卒業後のこと  
で當時はもつと容易にもらえるつもりで居られたらしい。  
それはよい意味にも悪い意味にも私の頭に強くしみ込んで



私の一生を支配していると思ふ事がある。

阿部先生は私たち学生を、卒業して大人になつてからもまるで子供に対するような態度でお世話をして下さつた。学生時代にはあまり感じなかつた先生の慈愛のまなざしを、この頃になつてじんと胸にひびいて来るいくつかの場面をまぎ／＼と思ひ出す。先生が愛情をあまり表現なさらないで居りながら、心の底に深い愛情をたくえて居られた事が長い間かゝつてやつと私にひびいて来たのかもしれない。四年のとき、当時輓近高等数学講座というのが出ていて、それには阿部先生が高等代数を書いて居られたが、三・四年生数人の分の代金をまとめて本屋に送金したはずのものを後になつて受取らないと言つて来たことがあつた。いくらさがしても受取らないと見あたらす、当時の七冊分十七円五十銭は相当大きく、思ひあまつて阿部先生に御相談した。先生は私の言うことを聞かれたゞけで私には何も言はれず、あとで「本屋を呼んで叱つておいたよ」と笑つて言われただけだつた。

卒業した年に結婚し、引きつゞき三児を得て家事と育児とがすべてであつた十年あまり、数学の本はもとよりその日の新聞すら読む閑のない生活、微分積分の公式どころか二次方程式の根の公式まで忘れてしまつた空白時代が過ぎて、終戦、引揚げ、留守宅は焼け、何もない私にたゞ一つ残された無形の財産は教員の資格であつた。資格さえあればすぐに職の見つかつた幸運な時代、就職難のこの頃の方

先生の七回忌をむかえ、高円寺のお宅でお経を聞きながら今さらのように先生の御慈愛を思ひ、色々な場面、その時の先生の御様子を次々と頭に浮べてみた。それにつけても、女高師程度ではないという信念をもつて女子大の数学科を創り育て、下さつた阿部先生に対して、現在の数理科が短期大学であるという理由で先生の御理想からはるかに遠いものであることを考へると、新しい大学制になる以前の数学科を女高師程度にまで引き上げられた先生の御努力が、今では空しく消えてしまつてゐることをすまない、情無いだけではないとして居られない程居たゞまれないものを感じる。先生の数々の御恩にむくいる唯一つの道は数理科を四年制の大学に引き上げること、それについては出来るだけの努力をするつもりである。

## 阿部先生の事

昭・七 卒 樋 口 千 嘉

阿部先生の追悼号をお出しになると伺つて今更に二十年か昔の私達の学校生活をなつかしく想ひ出している。僅か十数名の生徒の為にそれぞれの方面の一流の先生方がお授業をして下さつたのだけであつた先生方を集め、新しく出来た数学専攻部を盛り立て、行つて下さつた当面の責任者としての阿部先生のお骨折は大きかつたものと思

達には相すまないが、資格さえあれば頭の中は空っぽでも職が与えられ、内容のともなわぬ資格に対してそれをとりもどす必死の努力が始つた。阿部先生のお考えの通り女高師以上ではないがそれに近いものを世間は私の私にも認めてくれ、それに値するために、何時も実力以上の背のびをして歩いてゐるような生活が始まつた。その時来たのが教員再教育講習の講師である。昭和二十四年、自分の方が教育されねばならないのに、講師をするなど身の程知らずにも程があるが、どうしても引受けねばならなくなり、又思ひあまつて阿部先生におすがりした。高円寺のお宅をお尋ねして御相談するとすぐに文京三中の村山校長先生に紹介状を書いて下さつて、三十を過ぎた昔の教え子に昔と同じ子供に対するような態度で、私の出した手みやげの果物を「これを村山先生に持つて行きなさい」と言はれた時又じんと熱いものを感じた。

村山先生の教えを乞うて何とか大任を果してすぐ後、日本数学会の再生ともいふべき大会がその秋開かれた時、会場でお礼を申し上げたのが先生にお会いした最後であつたと思う。先生は第一回の発病後であられたと思うが、大してお交りなく、会長講話で多角形の外角の和が四直角であることを人が歩いて向きを変えることで話されたのだけ覚えてゐる。その大会が縁という程でもないが翌春今の文京高校に交つて来て二年目、先生の計を聞いて暗い気持ちで高円寺のお宅をお尋ねしたのもう七年の昔になる。

う。勿論あの頃の私達にそうした先生の御苦勞など分る筈もなかつたけれど、人数の少ない数学の生徒達が新入生の歓迎会に、卒業生の送別会に、機にふれて一つに集る時、いつも私達の中心には阿部先生があつた大きな御体でデンと座つていて下さつて何よりも頼り所になつてゐた。眼鏡の中の細い眼でニコ／＼笑つていらつしやる御姿を二十歳の歳月も決して消すことの出来ないほど私達のお父様としての親しさは深いものだつた。いくら横にねた字を板書されるスピードはお体に似ない速さで私達をあわてさせたけれどお授業は懇切丁寧だつた。

あの引揚げの時、他の一切の持物と共に何冊かのアルバムも失くしてしまつた私が今時折、心に思ひ浮べる何枚かの写真がある。私達の卒業の送別会を下級生の方々が国領の憩の家で開いて下さつた時、お庭の芝生で阿部先生と平野先生の御二人のお姿を誰かスナップしたのもその一つである。「平野先生が阿部先生に叱られていらつしやるの」茶目子達はそう云つて喜んだものだけれど何か至極難かしい御相談でもしていらつしやる様な御写真だつた。

一回生の方達の送別会にはわざ／＼横浜の三溪園に出掛けた。中央に阿部先生がいかにもお嬉しそうに大きな御身体の中に細い眼を一層細くしていらつしやるあの折の写真も目に浮ぶ。人数の少なかつた私達は何かと云つては「数学」と一かたまりになつて行動したものだけれど、あの空気はやはり阿部先生が作つて下さつたものではなかつたらう

か。何か機会ある毎に先生のお口から出る「数学の子供」という言葉はいつも私達全体を一抱にだき込まれた暖味のあるものだった。

火曜の朝の二時間が私達の一年の時の先生の代数のお授業だった。始の考査の済んだあとで答案を一人／＼角の細長い職員室に頂きに行つた様に思う。新しく入つた生徒の一人／＼によく親まれようとするとおつもりだったのでなかつたらうか。もつとも十人余りの私達のクラスのお授業は生徒にとつては誠に不本意の事ながら毎時間毎に各個人の存在を極めて明らかにするものではあつたけれど、先生のお授業は非常に親切だった。「こういう所は特に大事な点だ」「こう云う間違をしないように」生意気盛りの私は少少うるさくさへ思つたのだけれど、今自分が教える身になつてどうしてもさうした言葉を使わずにいられない立場というものを痛感している。生徒の成績の上らないのを悲しむとき、阿部先生が身を以つて私達に示して下さつた教授法の数々を思い浮べ、まだ／＼親切の足りない自分の至らなさを深く省みている。

### 阿部先生の思ひ出

吉利 花枝  
昭吉 秋元 寛子  
多賀 静子

阿部先生つて云えば一年の時初等代数演習を習つたが、

あの大きなお体で黒板に向い私達のかいた解答を見て下さる時に、何か文句を云はうと思つてか、口の中でブス／＼云つてらしたのを想い出す。

私達は随分考えて、つゝかれない様に完全に書いた積りでもきつと何か直される。式の移りかわりに「即ちが要るとか要らないとか、式をもつと右に寄せて書けとか、この字は点が足りないとか、あらゆることをひろい出しては直されたものだ。いつか対数表をひいてする計算の面倒な試験のあつた時、大分や／＼こしくして計算に手間どつていたら、先生は相談でもせよといはぬ許りに席を外された。私達の級は人数が少なくて、六人が二人づゝ並んでいた。はからずも相談したわけでもないのに隣同志同じ三組のちがつた答がでて、後で先生が解答して下さつたら、みんな間違つていて大笑いした事がある。

随分やかましい先生だつたが一寸もこわいという感じはなかつた。むしろ先生の時間はもつとも楽しい時間の一つで、いつも暖かい気分が溢れていた。

こうして四年間して卒業の後も、就職やら、折にふれては若い私共の世間しらすを御注意下さつたりして、随分先生の御厄介になつた。本当に私共の記憶の中に女子大と阿部先生は離すことの出来ないものになつてゐる。

其の後戦争などで互いに離れていた私達は漸く東京に集まり母校にも度々訪れるが、今はあのなつかしい阿部先生にお目にかゝることも出来ず、誠に淋しい思いです。

### 阿部先生の思ひ出

昭吉 金井 信子

阿部先生と云へば、あのでんとまるの先生と途端に思ひ出されて大変なつかしい。ノートに筆記する場合でも、黒板に書く場合でも、句読点のつけ方の大変やかましい先生だつた事は有名でした。試験ともなれば答案のてんとまるのつけ落しやつけ間違ひは勿論、余計な点でも書こうものなら忽ち減点となるのであるから阿部先生の試験は全く「油断のならない」もので、私達はこのてんとまるに随分と神経をつかつたものでした。今で云うてんとまるのノイロ一ゼでした。問題の答が出来たから八十点位かしらと思つてゐると五十点、六十点だつたりした事は珍らしくなく、だから阿部先生の試験と云ふとどこを間違へて五十点とつたのかよく解らないと云ふ時が多かつた事を思ひ出します。生徒に句読点に至るまでやかましく厳しかつただけに、先生は御自分も大変に私達に教へて下さる時言葉一つ文章一つにも正確であり明瞭でした。古い先生の代数のノートを今開いてみても、真にきちんと正確に書かれて居るのを見ると、口やかましく叱られ乍ら書いた当時の頃が思ひ出されて何とも懐かしき口元がほころびてひまです。先生は黒板にきれいな実に潤つた、体に似合わず小さな字をお書きになつたものでした。勿論句読点に間違ひのある筈はなく、すつきりと纏つて美しい書き方だつた事を覚えて居

ます。大変肥つていらしたのでお会ひした印象では、ゆつたりと鷹揚で何時も眼元や口元に笑ひを含まれた先生でしたが、教へられる事は実に注意が細かく自他共に実に厳しかつたので、その対照が私達には余計感じられて、どんなに叱られた事も、先生のゆつたりと巾のある人格に包まれてゐると教訓身にしみていやな感じがしなかつたものでした。本当に叱られた事が一番今でも懐かしく思ひ出され、真に「滋雨に打たれる」の感銘があつたと思ひます。茫然とした広やかな風格とその厳しい教育方法。一口で云ふとそういふ先生でいらしたと思ひますが、今日私達が社会に出て多くの問題にぶつた折、先生に羨けられた事が随分身にしみ合点される事が多いのではないかと思つて居ります。対社会対人間に接した場合、阿部先生の「人格と教育」の中から得たこの「柔軟さと厳しさ」が如何に大事なる事であるか今頃になつて初めてつく／＼と解つたような気がして、ですから私は今では先生の教育は単に数学の問題としてではなく、一つの処世術として活かして行きたいと思つております。卒業して既に七・八年の年月を経て居ますが、その間世に出て如何に人生ピリオドの打ち方の大事であるかと云ふ事を私達は随分と経験して居ますし、これからも先生の教訓と態度を立派に活かして一社会人として生活して行きたいと思つております。先生がお亡くなりになられた報を受けたのは卒業して間もなかつたと思ひますが都合で告別式にも参列出来ませんで真に残念に思つた事等

今もまだ／＼と思ひ出されますが、教わつた先生の凶報程悲しく寂しいものもありません。余り良い生徒でなかつただけに特に先生方を懐かしく思われてならないのかも知れませんが、どうぞ諸先生方も何時迄も／＼お元気でいらして下さいませう最後に先生方の御健康を心から祈つてやみません。

終り

### 編集後記

此の度阿部先生の七回忌にあたり会報の附録として先生の追悼号を出す事と致しました。会員の皆様方から先生の想い出話や写真をお送りいただき、こゝにさゝやかながら先生を記念するアルバムが出来上りました事を皆様と共に喜びたいと存じます。

先生は我々数専の産みの親とも申すべきお方で、私共の今日あるを思います時先生の御苦勞を有難く思うのでございます。殊に先生のお授業を受けましたものにとりましては、先生の御容姿は忘れ難いものでございます。教壇に立つものが一人として、先生の御注意を思い出さない人はないと存じます。私達を愛するが故に厳しくして下さいた先生を今では感謝の思いを持つておしのびしている方が多い事と思ひます。この小さいながらも書くもの一人々々が真心をこめた追悼号によつて尚一そう先生のお姿を鮮かにおしのびたいとすれば幸いと存じます。

(会報係)

### 会報

— 阿部先生追悼号 —

発行日 昭和三十三年二月

発行者 東京女子大学同窓会 数専会

東京都杉並区井荻三丁目

発行所 東京女子大学内

東京都杉並区西高井戸二ノ三

印刷所 氷見印刷所

電話 荻窪 四七九三六番

